



# よつばの手紙

特集「キラキラ いきいき 女性たち」

## 目次

- ・特集「キラキラ いきいき 女性たち」
- ・市内企業レポート
- ・さんかくの窓
- ・相談窓口の案内
- ・現場の芽、地域の日
- ・男女平等参画コーナー
- ・おうめの散歩道
- ・人のわ

# 特集

## キラキラ いきいき 女性たち

平成11年に「男女共同参画基本法」が制定されてから早12年。この間、私たちの社会はどうか変化していったのでしょうか？男女共同参画基本法に女性の社会進出がうたわれる一方で、図1(P4)のとおり、現実はなかなか浸透していないとも言われています。そんな中、一般的に男性が多いと思われる職場で活躍している女性3人にインタビューしてみました。

### 救急救命士



#### 「念願の救急救命士」

「青梅消防署へ赴任して2年、やっと救急救命士の認定を受け救急車に乗れるようになりました」と語る横尾さんは、制服のサイズが大きく見えるほど小柄で、華奢という言葉がぴったりの女性。男性消防官と一緒に体力づくりも頑張っています。

救急救命士とは、かつての初歩的な応急処置ではなく救急車内などで医師の指示のもと、高度な応急処置により救命率の向上を図る



あゆみ 横尾 歩さん  
穏やかに話をする横尾 歩さん

ために平成3年に制度化された国家資格です。

#### 「女性だからこそ」

元々医師を目指していた横尾さんですが、人の命を助けるという同じ目的である救急救命士の存在を知り、資格取得のために大学は救急救命学科に進学。様々な専門分野の知識を学び、国家資格を取得後東京消防庁に勤務し、ポンプ車やはしご車で消防官としての訓練を受けました。救急救命士になろうと決めた時から、女性として区別されたくないという気持ちがあったものの、やはり体力的に男性に劣っているのは辛いこと。でも、「反面、女性だからできることもあると思う。女性の傷病者に救急隊員が女の人でよかった、と言われた時には、この仕事に就いた価値を感じます。病院で本人や家族に感謝された時は本当に嬉しい。苦しむ人を病院で待つのではなく、救急車で自分から駆けつけられる今の仕事が私の性格には合っています」と横尾さん。

#### 「家族のような信頼関係」

東京消防庁の救急救命士は男性889人に対して女性は15人。「却って周りの男性が気を遣っているかもしれないが、遠慮なく接してくれるのがありがたい。赴任当初の緊張や遠慮もなくなり、何でも話せて、相談できる今は家族のよう。27人の班は年齢層も広く、お父さんやお兄さんが何人もいるようの人としても成長できます。」そして、仕事への姿勢、考え方の質問



消防署の風景



レース直前の様子

には「人生を豊かにする手段にもなっています」と穏やかに話す横尾さんからは、人への思いやりと命の大切さが伝わってきました。

## ◆ボートレーサー



「辞めなくてよかった」

高校3年生の時、多摩川競艇場でボートのスピードやエンジン音

の「かつこよさ」に惹かれ、目指していた体育教師ではなくボートレーサーの道を選んだ宮本さん。当時はまだ女性の選手は少なく、競艇の特色のひとつである男女が同じ条件で戦うゆえの苦労も多かったそうです。本栖もとすの競艇学校に通っていた1年間もボートに関する勉強の他、乗艇訓練、精神鍛錬のための武道も男性と一緒にした。とても辛い訓練に、「何度も辞めようと思つて母に手紙を書きました」でも、「教官に言いだせなかった」と笑う宮本さんは、そんな辛い経験をしながらも「28年間この仕事をしてきてよかった。体力の続く限り現役でいたい」と目を輝かせます。

## 「出産後の復帰」

「若いころは上下関係の厳しさや技術面で覚えることが多くて大変でした」今でも、走りの調子に関わるエンジンの整備、プロペラの調整など全ての作業を自分でやらなければならない中で、男性5人とのレースで1着を取った時は



目を輝かせて話す宮本 紀美さん

「本当に嬉しかった」そして女子の大会で優勝したことも「忘れられない思い出です」

1つのレースで最低でも5日間の拘束。関東から九州まで、日本各地のボートレース場へクリスマスも正月も関係ない選手生活を送る一方で、母親でもある宮本さん。妊娠、出産で1年間仕事を休み、出産後3カ月で復帰。お子さんが小さいころ、実家に預けて何日も会えない寂しさの中でも安心して選手生活が続けてこられたのは、「夫の協力が大きかったです。今でも夫と娘と一緒に買い物に行くほど仲がいいんです」と同じボー

トレーサーである夫に感謝しています。

レースに集中する分、休日は家族や後輩たちと食事やゴルフでリフレッシュ。インタビュ中、レースのエンジン音が気になる様子の宮本さんの「今、後輩が走っているの…」という言葉に、厳しい世界の中での絆、思いやりの心を感じました。

## ◆自動車整備士



「メカニックとの出会い」

小さいころケーキ屋さんやおもちゃ屋さんになる夢を持っていた増田さんは、16歳の時に自動二輪の免許を取り、「自動車整備士になりたい」と思うようになりました。車やバイクに乗るだけでなく、故障した時に自分で修理ができたらいいな、と思ったことがメカニックに興味をもったきっかけです。

その後専門学校に進み、2級整



イキイキと答える増田 <sup>かおる</sup> 郁さん

備士コースで2年間、エンジンやブレーキなど自動車整備に必要な装置の構造や作動原理について、実践と理論を学びました。男女合わせて約400人いた同級生の中で、卒業時には女性は2人だけ。卒業後に国家2級整備士の資格を取得。就職活動当時、整備士の募集は「男性のみ」の企業が多かった中、男女の制約のない現在の会社に入社して9年が経ちました。

女性整備士ということに驚かれることもありましたが、それも少なくなりました。故障を直した時、お客様から「質問しやすかった。わかりやすかった」と言われる時に、喜びややりがいを感じます。

職場では女性だからという意識はあまりなく、わからないことは聞き、教わり助けられることで技術を上達させ、仕事の上で恩返ししたいとのこと。昨年末、女性では日本初の「日産GT-R認定メカニック」の資格を取得し、遠慮がちに認定書を見せてくれる姿には自信と誇りが感じられました。さらに国家1級整備士の試験にも挑戦中で、夢が大きく広がります。休みの日も大型バイクで気ままにツーリングを楽しむ増田さんは、充実した日々を送っています。

### 女性では日本初の資格

### 好きだからこそ

仕事をしていて辛いことは、長袖のユニフォームなので夏の暑さが大変なことと、冬には手荒れがひどいこと。それでも、好きだからこそ前向きになれる……。専門学校を卒業する時には残った教師にならないかと勧められた

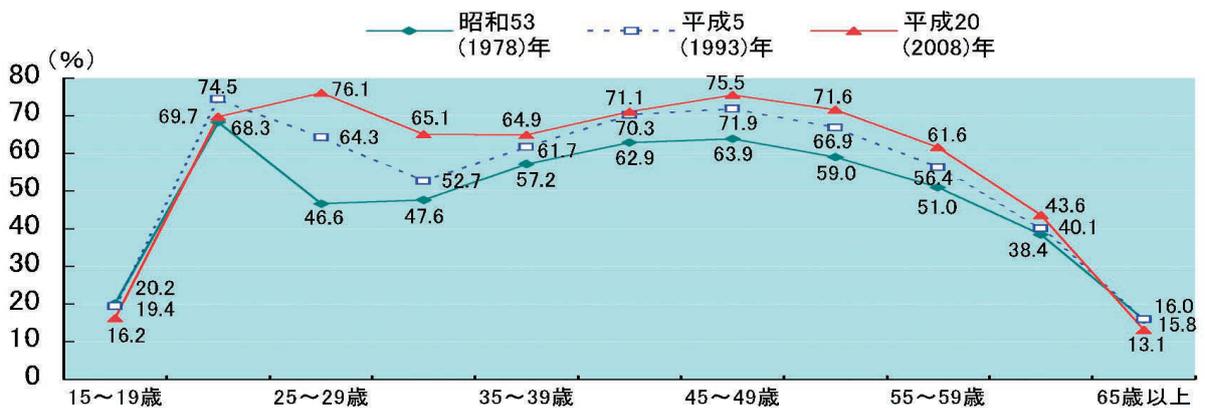


ほど、質問一つ一つに生き生きと答えてくれる増田さんはとても明瞭活発で魅力的な女性でした。



真剣に整備する増田さん

図1 女性の年齢階級別労働力人口比率（全国）



資料：総務省「労働力調査」

# お客様にありがとう 言われる社員教育

全ての工程に責任をもつため、企画・デザイン・染色・織布・プリント・縫製・刺繍・物流・販売（直営店）と一貫して自社生産するホットマン株式会社の田中社長にお話を伺いました。



ホットマン株式会社  
代表取締役社長  
田中 俊之さん

## ◆オリジナルのタオルを製造

タオルの産地と言えば愛媛の今治、大阪の泉州が挙げられますが、当社は服地で培った技術と時代に左右されない製販一貫へのこだわりで、世界に誇るメイド・イン・ジャパンのタオルを作り上げてきました。

## ◆地域に育てられ60年

おかげさまで、昨年創業60周年を迎えました。本年は直営1号店を六本木に構えて40年となります。地域への還元として年2回実施している工場感謝祭も、毎回多くの皆様にご来場いただいております。また、市内小学校の工場見学受入や明星大学と連携を図り「青梅マラソントオル」の製作もしています。

## ◆全てはお客様からのありがとうのために

新入社員には3年以内に全国74店舗ある直営店の店長を目指すように言っています。お客様に喜んでもらうために何をするか考え、更に良

い商品を提供しようという気持ちが生まれます。常に顧客目線をもつことが社員の喜びになります。当社の社員はお客様に育てられています。

## ◆女性の感性が大切

当社は女性社員が多数おり、女性執行役員もいます。職員採用も毎年実施していますが、採用の8割が女性です。お客様は女性が中心ですので、女性の感性を大切にしています。最近では若手中心のプロジェクトも立ち上げ、形や色など固定観念に捉われない発想に驚かされました。自分たちで創意工夫し作り上げる楽しさを体験することも社員の成長となっています。

ホットマン株式会社（長淵5丁目）

設立 昭和26年4月 社員数415人（男性80人/女性335人）

繊維製品の製造・加工および販売

<http://www.hotman.co.jp/>

## アルファ・ガール の仕事術

金 榮順著  
鈴木深良訳  
ヨシモトブックス 発行  
ワニブックス 発売



## さんかくの窓

アルファ・ガールとは、小さいころから男女区別なく育てられ、勉強、スポーツなどあらゆる面で優秀で、社会で活躍する積極的な女性たちのことを表す韓国の言葉です。

3人の子育てをしながら韓国ソウル市ソンパ区の女性区長だった著者が、偏見や困難の中でことわざや格言、ときにはバスの乗務員の言葉から気づかされた視点を変えた考え方によって、さまざまな政策を実現させたノン・フィクションです。

OECD加盟国の中で30代女性の経済活動参加率が極端に低い韓国と日本。その共通点から両国の女性へのエールとしてばかりではなく、物事を見る視点、姿勢、言葉使いの大切さなど、日々の生き方の参考として男性にも読んで欲しい1冊です。

## 相談窓口の案内

公的支援機関の相談窓口をご利用ください。

	相 談 先	内 容
女性の 相 談	東京ウィメンズプラザ TEL 03-5467-2455 毎日 9:00~21:00 (年末年始は休み)	女性の総合相談 ドメスティック・バイオレンス、 夫婦・親子の問題、生き方や職場 の人間関係など (就職活動の支援は行っておりま せん)
	東京都女性相談センター 多摩支所 TEL 042-522-4232 月~金曜日 9:00~16:00 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	
	青梅市子育て支援課 TEL 0428-22-1111 月~金曜日 8:30~17:15 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	
女性の 就 職	マザーズハローワーク東京 TEL 03-3409-8609 月~金曜日 9:00~17:00 (土・日曜日、祝日は休み)	キャリアカウンセラーによる女性 の就職活動全般の相談 キッズコーナーも併設
	ハローワーク立川 マザーズコーナー TEL 042-523-1509 月・木曜日 9:00~19:00、火・水・金曜日 9:00~17:00 第1・3土曜日 10:00~17:00 (第2・4・5土曜日、日曜日、祝日、年末年始は休み)	
就 職	ハローワーク 青梅 TEL 0428-24-8609 月~金曜日 8:30~17:15 (土・日曜日、祝日、年末年始は休み)	職業相談 求職活動のサポート
労 働	(財)東京しごと財団 東京しごとセンター 多摩 TEL 042-329-4510 月~金曜日 9:00~20:00、土曜日 9:00~17:00 (日曜日、祝日、年末年始は休み)	就職支援アドバイザーによる就職 活動支援、仕事探しのアドバイス、 職業紹介、面接対策等
	東京都ろうどう110番 TEL 0570-00-6110 月~金曜日 9:00~20:00、土曜日 9:00~17:00 (日曜日、祝日、年末年始は休み)	賃金・労働時間等の労働条件や労 使関係など労働問題全般にわたる 相談

なお、男女平等参画に関することは、青梅市企画調整課 TEL 0428-22-1111 内線 2421

## 現場の芽



家族や、近隣に身寄りがいないなど、独り暮らしの高齢者が増える中、高齢者の方が住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を送れるようにサポートしていくには、青梅市の高齢介護課、市内3か所にある地域包括支援センター、民生委員や地域の方々の協力が必要となります。

具体的には、買い物、家事、調理、掃除になりますが、「できることは自分で行う」が基本です。サポートしていく中で、自立されていく方を見たと時にはスタッフとしてとても嬉しく、みんなで高齢者を見守り、高齢者を理解できる地域づくりの大切さを実感します。

青梅市でも、高齢者ご本人の介護予防だけではなく、介護をされている家族や援護者の方のケアも含めた「介護教室」を開いています。予防のための体操や、ベッドや車イスを使って、専門家が介護方法のポイントを教えます。また、困りごとや相談がありましたら、気軽に高齢介護課や地域包括支援センターにご連絡ください。

## 地域の目



二俣尾2丁目に住む澤田實さん。東京シティガイドとして、青梅を中心に観光案内をしています。東京シティガイドは、歴史や文化、産業に至るまで、たくさんの方の知識をもつガイドです。澤田さんはその幅広い知識と多くの経験を活かし、プロ意識をもって、お客さんを案内しています。

「若い世代の人たちには、あらゆる可能性があります。ただしその可能性を活かせるかどうかは自分次第。何事にも自ら挑戦し、たくさんの方の経験を積んでほしいと思います。」そう語ってくれた澤田さん。その精神で、ご自身も多くの資格を取得し、地域での活動に活かしてきました。

青梅には未来へ引き継いでいかなければならない多くの伝統があります。しかしその一方、新しい視点でものごとを考え、チャレンジしていくことも必要なかもしれません。

# 男女平等参画コーナー

## ワーク・ライフ・バランスとは？

シリーズ2回目

「子どもを授かった！でも、うちは共働きだから、二人とも終業時間に帰れない日が続いたら子育てできないし、かといって仕事を辞めたら生活できないし。子育てが一段落するまで、仕事の比重を今より軽くできないかなあ……。」

働き方の理想は人それぞれ(図2参照)。ワーク・ライフ・バランスとは、その人の望むバランスでの私生活と仕事との両立を意味します。仕事と私生活の両立と聞くと、働く女性のための取組のよ

うに聞こえるかもしれませんが、そうではありません。平成19年に国の「仕事と生活の調和推進官民トップ会議」による「仕事と生活の調和憲章」の策定を受け、企業では育児時期や介護時期などその人の段階に合った働き方ができるよう、短時間勤務制度、在宅勤務などの働き方を作ったり、長時

せん。子育て中の男性、親の介護をする必要がある人、地域の活動に参加したい人など、老若男女を問わず多くの人が、自分の望むバランスで仕事と私生活の両立ができるような社会の実現が目的です。

## おうめの散歩道



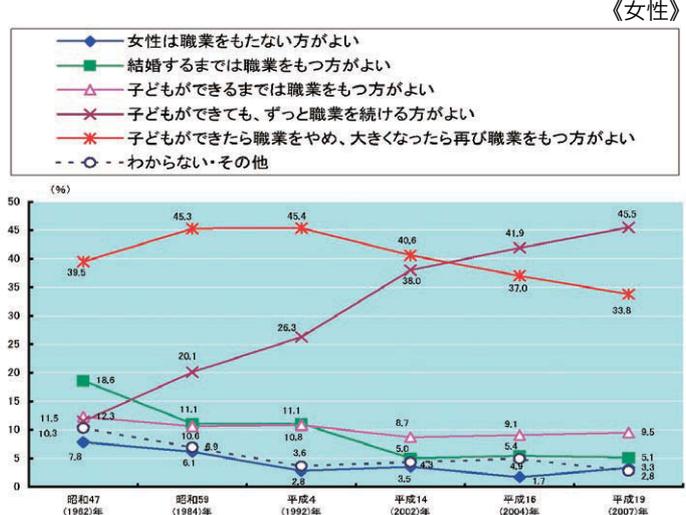
新田山公園 新町7-33  
面積：37,000㎡

元々、新町地区は江戸時代に開拓され平地林だった場所で、今はその大部分が住宅地となりました。そんな中、たくさんの木々が残り、住宅街の真ん中で一步足を踏み入ると四季折々の自然が感じられる新田山公園は本当に貴重な場所と言えます。また、広いグラウンドや木製の遊具、ベンチがあり外周800mのジョギングコースも設定されているので目的に合わせて家族や友人と利用できます。心地よい木のおいとおかぽかした日差しが入るログハウスもあるので、日々の喧騒を忘れホッと一息つくのもいいかもしれません。



**アクセス**  
小作駅東口②番、③番 バス 三ツ原循環乗車、〔平松北〕下車、徒歩3分、無料駐車場あり  
青梅駅①番 バス 柳沢行き乗車、〔畜産試験場〕下車、徒歩1分  
**問い合わせ**  
青梅市公園緑地課 TEL0428-22-1111 (内線2511)

図2 女性の働き方に関する考え方 (全国)



資料：男女共同参画会議 少子化と男女共同参画に関する専門調査会「男女の働き方と仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する調査結果概要～少子化と男女共同参画に関する意識調査より～」平成18年12月 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

間労働を減らすよう促したり、社員の意識改革を図ったりと、さまざまな取組を行っています。青梅市でも、市内の企業向けに「仕事と生活の調和推進」のための講座やパネル展の開催、ファミリー・サポート・センター事業の実施など、ワーク・ライフ・バランスの推進に努めています。「仕事と生活の調和推進のための行動指針」(平成19年策定)では、平成32年までにさまざまな数値目標を定めています。現在の職場のワーク・ライフ・バランスへの取組に満足していると感じている人は決して多くありません。使いやすく職場のニーズに合った制度の導入、制度を利用しやすい職場環境作りなど、目標達成のためには今後さらに工夫が必要となってくるでしょう。

## 人のわ

武井<sup>たけい</sup>

忠康<sup>ただやす</sup>さん(79歳)

自営業(梅郷3丁目)

もともとは畑の草を食べさせるために飼いだめたのがポニーの『りく』でした。それからヤギ、ウコッケイ、



子どもたちに動物を紹介する武井さん

クジャクと、だんだん仲間が増え、今ではまるで小さな動物園のようになりました。世話をするのは大変ですが、もうみんな家族の一員です。  
5年ほど前から、第五小学校の生活科の授業の一環として、一年生を招待してポニーに乗せています。もつと乗りたい！と大きな声を出さず

もいれば、怖がって乗ろうとしない子どもも。いろいろな反応があつて、毎年楽しみですよ。動物とふれあう機会が少ない子どもにとつてはとても貴重な経験だと思います。子どものころの経験は、大人になつても覚えていきますからね。

やっぱり子どもの笑顔が大好きです。自作の遊具を庭に設置したのも、理由はそれ。学校の帰り道に、ブランコやハンモックでみんなが楽しそうに遊んでいる姿を見ると、自分も嬉しくなつてきます。

本業はそば屋ですが、こだわりをもつて仕事ができるのも、お客さんの笑顔があるからです。

最近はずいぶんニュースが多いような気がします。悲しいことですが、自分を中心と考えている大人が増えていのではないのでしょうか。だからこそ、子どもたちには遊びの中でさまざまなことを学び、心を豊かにして、優しい大人になつてほしいと思います。

### <編集後記>

- \*「自分らしく生きる」ということ。出来ているか自信は無いけど、今笑っていられるということは、少しは「自分らしく」に近づいてきているのかな。(よ)
- \*特集の3人の女性は各分野のパイオニア。自信をもちつつも謙虚な姿勢が印象的でした。また今回はボートレース観戦デビュー。雰囲気存分に楽しみました。(か)
- \*青梅のご当地グルメ「トウキョウX肉うどん」が話題を呼んでいる。市内のうどん・そば店が中心となり、青梅マラソンでは限定400食を完売。5月には大多摩B級グルメにも出店が決まっている。(お)
- \*夢をもつこと、目標をつくること、その大切さを特集の女性たちから改めて教えていただきました。(ふ)
- \*いろいろな公園を見に行き、まだまだ青梅には楽しい公園があることがわかりました。これからの季節はお花見なんかもいいですね。(ご)



◆みなさんの意見募集・ご感想をお寄せください。

また、「よつばの手紙」で取り上げたい内容がありましたら、お知らせください。

### よつばの手紙 第6号

発行日 2012年3月  
発行 青梅市企画部企画調整課  
電話 0428-22-1111  
内線 2421  
編集 男女平等情報紙編集委員会  
編集委員 吉田由美子 狩野 恵子  
大野 哲明 福島恵美子  
後藤 啓介